資料１－２

3. モニタリング調査結果報告

3-1.森林生態系保護地域

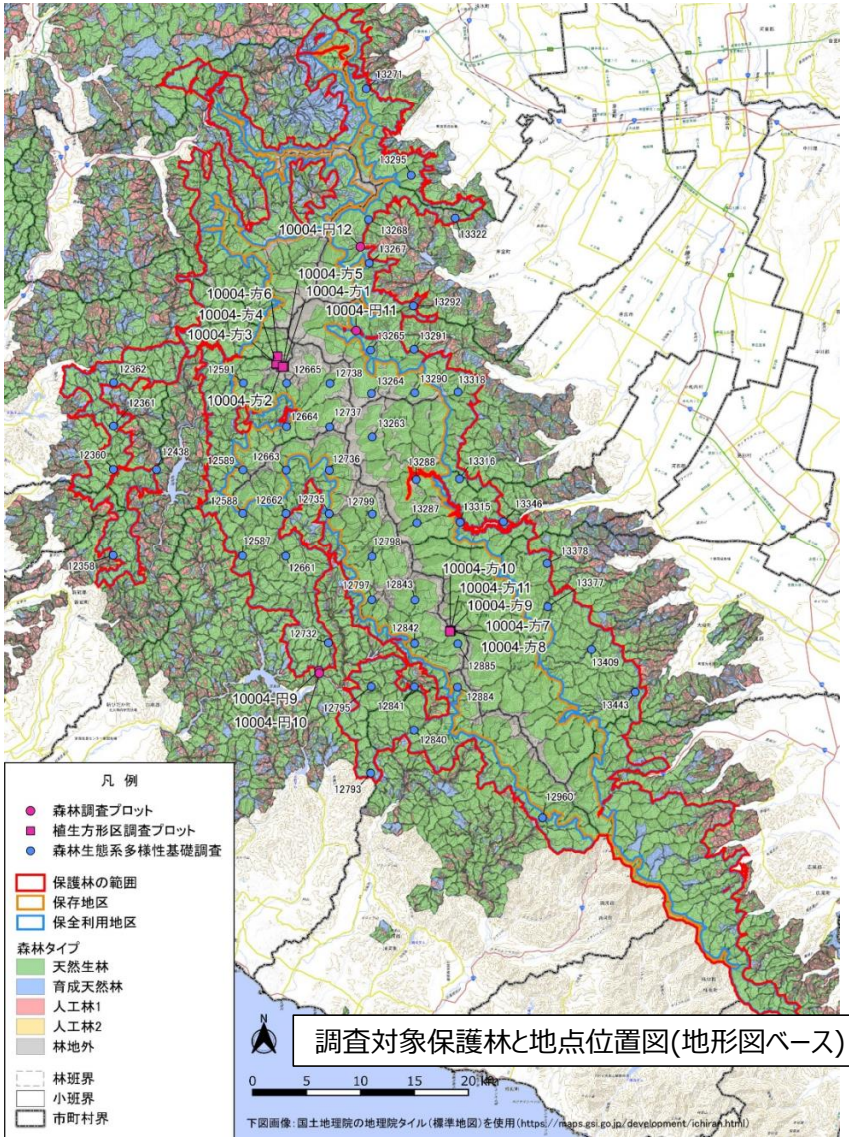
3-1.森林生態系保護地域（1箇所）

保護林名(面積)	10004 日高山脈森林生態系保護地域 （167,962.31ha 保存地区:70,697.21ha/保全利用地区:97,265.10ha）
保護対象	北海道の中央南部を代表する日高山脈にみられる原生的な天然林
前回保護林調査	R2
今回の調査方法等	・資料調査 ・植生方形区プロット調査（11箇所　うち不到達5箇所） ・保護林森林詳細調査（2箇所） ・保護林森林概況調査（2箇所） ・森林生態系多様性基礎調査（52箇所　うち不到達29箇所）
調査林分の状況等	・高山帯植生方形区プロット調査では大きな変化は確認されず、食害や気象害とも確認されなかった。 ・詳細調査ではキタゴヨウは比較的健全であったが、スズタケの衰退が確認された。 ・概況調査では軽微な気象害等が確認されたが、林相に大きな変化はなかった。
調査周期	10年ごと 森林生態系多様性基礎調査（林野庁）による現地調査が実施されていることから、それらの情報も活用する。
評価・課題・提案	**高山帯：確認された影響[特になし]** ・引き続きモニタリングによる経過観察を実施することが望まれる。 **樹林帯：確認された影響[野生鳥獣]** ・エゾシカの影響や気象害等を注視しつつ、引き続きモニタリングによる経過観察を行う。

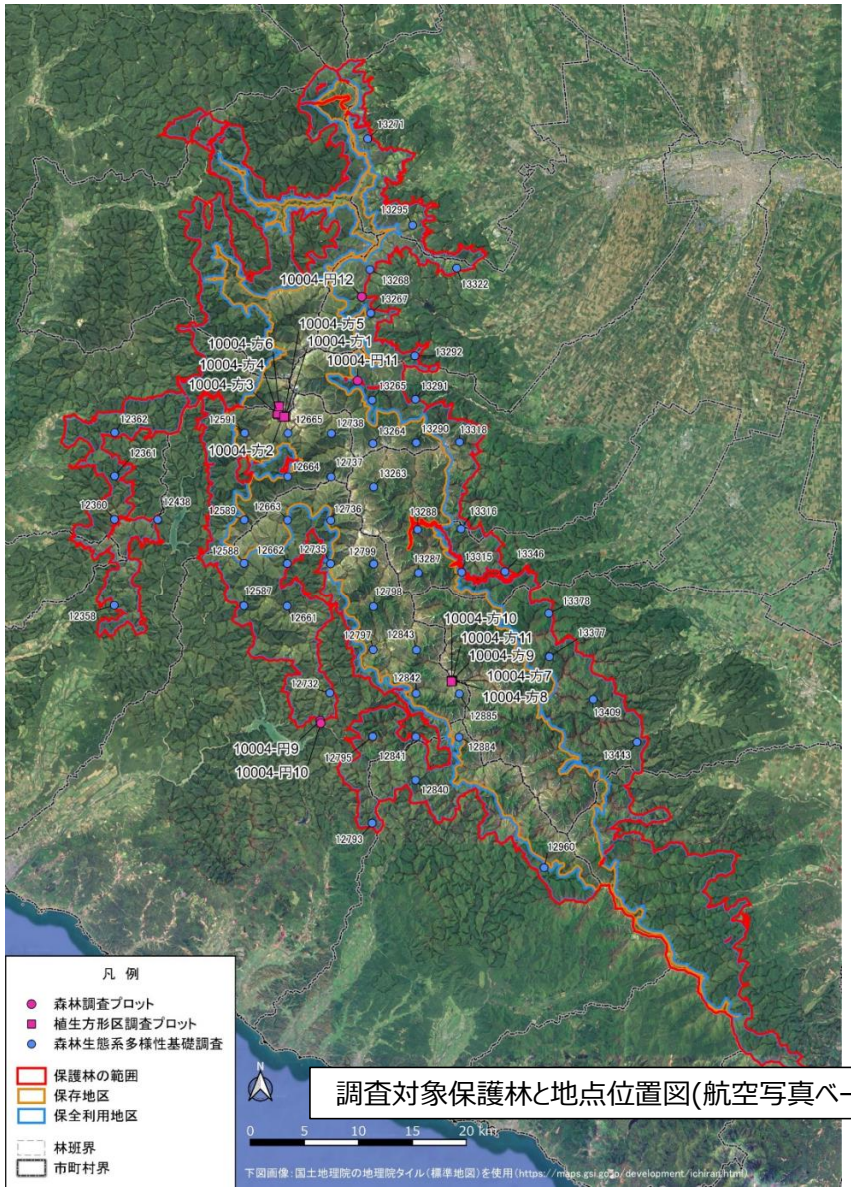
1 日高山脈森林生態系保護地域

実施した現地調査	植生方形区プロット調査(6箇所),保護林森林詳細調査(2箇所),保護林森林概況調査(2箇所),森林生態系多様性基礎調査(23箇所)

保護対象：北海道の中央南部を代表する日高山脈にみられる原生的な天然林



調査対象保護林と地点位置図(地形図ベース)

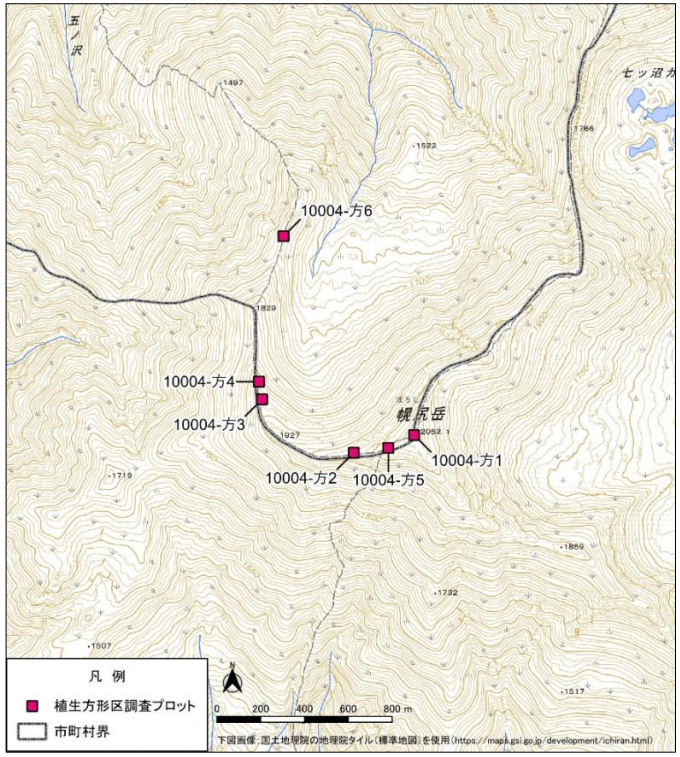


調査対象保護林と地点位置図(航空写真ベース)

1 日高山脈森林生態系保護地域

実施した現地調査	植生方形区プロット調査(6箇所),保護林森林詳細調査(2箇所),保護林森林概況調査(2箇所),森林生態系多様性基礎調査(23箇所)

調査地点位置図



・全地点とも前回調査時から大きな変化は確認されなかった。

H25 R7

10004-方1

10004-方1

10004-方2

10004-方2

10004-方3

10004-方3

10004-方4

10004-方4

10004-方5

10004-方5

H25 R7

10004-方

10004-方6

植生群落組成表

調査区番号	10004-方1		10004-方2		10004-方3		10004-方4		10004-方5		10004-方6	
調査月日	H25.9.19	R7.8.6	H25.9.19	R7.8.6	H25.9.19	R7.8.6	H25.9.19	R7.8.6	H25.9.19	R7.8.6	H25.9.19	R7.8.6
方位	N74W		W		N25E		E		N25W		S52E	
傾斜（°）	20		40		19		26		18		14	
調査面積（m×m）	1×1		1×1		1×1		1×1		1×1		1×1	
地形	やせ尾根		やせ尾根		やせ尾根		やせ尾根		やせ尾根		やせ尾根	
草本層1の高さ（m）	0.03	0.15	0.1	0.1	0.15	0.25	0.36	0.5	0.67	0.8	0.73	0.8
草本層1の植被率（%）	90	90	80	80	100	100	80	90	100	100	100	90
草本層2の高さ（m）	–	–	–	–	–	–	–	–	0.05	0.05	0.19	0.3
草本層2の植被率（%）	–	–	–	–	–	–	–	–	5	1	80	80
優占種	チシマツガザクラ	チシマツガザクラ	ガンコウラン	ガンコウラン	クロウスゴ	クロウスゴ	ナガバキタアザミ	ナガバキタアザミ	ハイマツ	ハイマツ	ミヤマハンノキ	ミヤマハンノキ

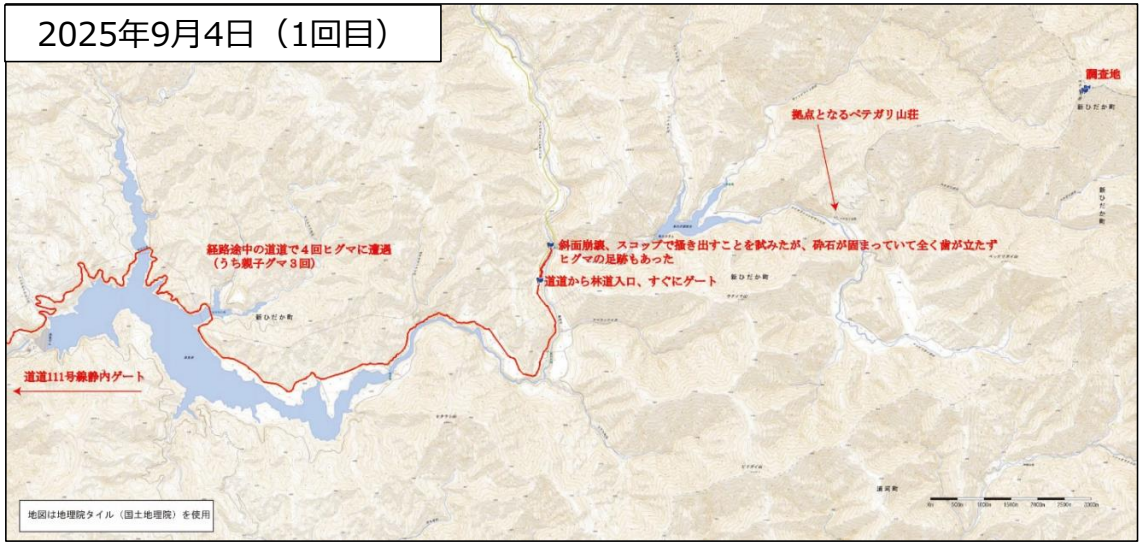
出現種数	9	10	5	6	7	12	8	10	3	4	7	11
草本層												
ハイマツ	+・1	1・2	+	1・1					5・5	5・5		
ショウジョウスゲ							3・4	2・2			3・3	2・2
ミヤマハンノキ											5・5	4・4
ガンコウラン		1・2	3・3	3・3								
ミヤマヤナギ	1・1	1・1			2・2	2・2	1・1	+				
ナガバキタアザミ							4・4	3・3				
コケモモ	1・1	+	3・3	2・2					+	+		
クロウスゴ					3・3	3・3						
チングルマ					2・2	2・2	+					
コメバツガザクラ	2・2	2・2										
チシマツガザクラ	2・2	2・2										
ウラシマツツジ	+・2	1・1	1・1	1・1								
ミネズオウ	1・2	2・2										
ミヤマアキノキリンソウ											1・1	2・2
チシマフウロ							+	1・1			+	1・1
ハイオトギリ								1・1			+	1・1
タイセツイワスゲ	+・2	1・1										
ミヤマヌカボ						+		1・2				+
サマニヨモギ					+・1	1・1	+					
ミヤマダイコンソウ							+・1	1・1				
ムカゴトラノオ					+・1	1・1						
キバナシャクナゲ					1・1	+			+	+		
ハクサンボウフウ								+			+	1・1
エゾツツジ						1・1						
タカネノガリヤス								1・1				
地衣類				1・1								
イワヒゲ	+	+	+	+								
エゾノヨツバムグラ											+	+
イグサ科の一種						+						
イネ科の一種						+						
エゾウサギギク						+						
エゾシオガマ												+
エゾヒメクワガタ												+
コケ類										+		
コメススキ					+							
ショウジョウバカマ							+					
スゲ属の一種						+						
スミレ属の一種								+				
ミヤマキスミレ												+

1 日高山脈森林生態系保護地域

実施した現地調査	植生方形区プロット調査(6箇所),保護林森林詳細調査(2箇所),保護林森林概況調査(2箇所),森林生態系多様性基礎調査(23箇所)

植生方形区プロット5箇所(ペテガリ岳山頂付近)不到達について

2025年9月4日（1回目）



2025年9月22日（2回目）

斜面崩壊箇所

ヒグマ遭遇

林道崩壊箇所

ヒグマ痕跡

・ペテガリ岳登山の拠点となるペテガリ山荘への林道の斜面崩壊のため（山荘まで約9km）、調査地への到達ができなかった。
・その後、林道が修復されたという情報を受けて、再度調査へ向かったが、別の箇所の林道崩壊（山荘まで約6km）により、1回目と同様の状況となり、ヒグマの痕跡も多数確認されたため、調査時間や安全面等を総合的に判断して、不到達とした。

1 日高山脈森林生態系保護地域

実施した現地調査	植生方形区プロット調査(6箇所),保護林森林詳細調査(2箇所),保護林森林概況調査(2箇所),森林生態系多様性基礎調査(23箇所)

植生方形区プロット調査　総括

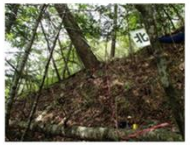
保護林名		日高山脈森林生態系保護地域											
プロットNo.		10004-方1		10004-方2		10004-方3		10004-方4		10004-方5		10004-方6	
旧No.		H1-4-1		H1-4-2		H1-4-3		H1-4-4		H1-4-5		H1-4-6	
調査年度		H25	R7	H25	R7	H25	R7	H25	R7	H25	R7	H25	R7
調査日		9月19日	8月6日	9月19日	8月6日	9月19日	8月6日	9月19日	8月6日	9月19日	8月6日	9月19日	8月6日
プロット情報	標高	2052m		1970m		1880m		1868m		2020m		1740m	
	斜面方位、傾斜(平均)	N74° W、20°		W、40°		N25° E、19°		E、26°		N25° W、18°		S52° E、14°	
	局所地形	やせ尾根		やせ尾根		山腹平衡斜面		やせ尾根		やせ尾根		やせ尾根	
植生状況	【草】優占種	チシマツガザクラ	チシマツガザクラ	ガンコウラン	ガンコウラン	クロウスゴ	クロウスゴ	ナガバキタアザミ	ナガバキタアザミ	ハイマツ	ハイマツ	ミヤマハンノキ	ミヤマハンノキ
	【草】高さ	0.03m	0.15m	0.1m	0.1m	0.15m	0.25m	0.36m	0.5m	0.67m	0.8m	0.73m	0.8m
	【草】植被率	80%	90%	80%	80%	100%	100%	80%	90%	100%	100%	100%	90%
	攪乱状況	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	病虫害	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
	獣類痕跡【C1】	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
攪乱、病虫害、獣類痕跡のコメント		特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし	特になし
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響		確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]	確認された影響[-]
ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 －:特になし		引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う	引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真													

・今年度の調査では植生に大きな変化は確認されなかった。
・全地点について、登山による踏みつけ等の影響、食害や気象害は確認されなかった。
・引き続きモニタリングによる経過観察を実施することが望まれる。

1 日高山脈森林生態系保護地域

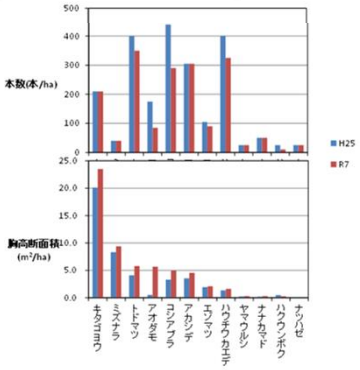
実施した現地調査	植生方形区プロット調査(6箇所),保護林森林詳細調査(2箇所),保護林森林概況調査(2箇所),森林生態系多様性基礎調査(23箇所)

プロットNo.10004-円9

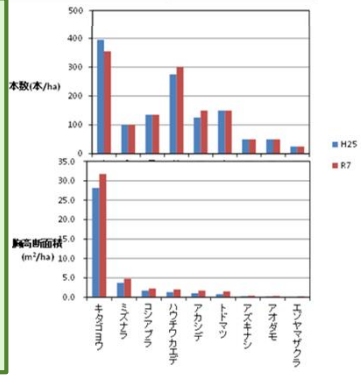
項目	H25	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			林床ではスズタケの被度が減少した。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロットNo.10004-円10

項目	H25	R7	比較結果等
磁北方向			林床ではスズタケの被度が減少した。
磁東方向			林床ではスズタケの被度が減少した。
磁南方向			林床ではスズタケの被度が減少した。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。



・キタゴヨウの立木は比較的健全であったが、林床ではシカの痕跡が多く更新には留意が必要である。
・到達経路、調査プロットともに急傾斜地であり、現地調査には非常に危険が伴い、代替可能な候補地もないため、今後はドローン等を用いた遠隔撮影により概況調査に留めるなどの調査方法を検討する。



保護林森林詳細調査　総括

保護林名		日高山脈森林生態系保護地域			
保護対象種		キタゴヨウ	－	キタゴヨウ	－
プロットNo.		10004-円9		10004-円10	
旧No.		N4-28-1		N4-28-2	
調査年度		H25	R7	H25	R7
調査日		9月11日	9月11日	9月11日	9月11日
林分状況	【高】主要構成樹種	キタゴヨウ、トドマツ	キタゴヨウ、トドマツ	キタゴヨウ	キタゴヨウ
	【高】樹高	16～21m	17～25m	18～28m	19～29m
	【高】植被率	－	70%	－	70%
	【高】DBH	20～71cm	20～75cm	23～59cm	25～65cm
	【亜】主要構成樹種	トドマツ、コシアブラ	トドマツ、コシアブラ	ミズナラ、コシアブラ	ミズナラ、コシアブラ
	【亜】樹高	7～14m	8～15m	7～17m	7～18m
	【亜】植被率	－	50%	－	30%
	【亜】DBH	5～22cm	5～22cm	7～20cm	7～20cm
	【低】主要構成樹種	ハウチワカエデ	ハウチワカエデ	ハウチワカエデ	ハウチワカエデ
	【低】樹高	2～7m	2～7m	2～7m	2～7m
	【低】植被率	20%	20%	－	20%
	【低】DBH	1～8cm	1～8cm	1～5cm	1～4cm
	最大樹高樹種	キタゴヨウ	キタゴヨウ	キタゴヨウ	キタゴヨウ
	樹高	21.1m	24.0m	27.7m	28.7m
	最大直径樹種	ミズナラ	ミズナラ	キタゴヨウ	キタゴヨウ
	直径	71.2cm	76.2cm	59.7cm	63.3cm
	保護対象種の本数割合	－	－	－	－
	気象害	－	－	－	－
	病虫害	－	－	－	－
	気象害、病虫害のコメント	－	－	－	－
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	食痕、剥皮	食痕、剥皮	食痕、剥皮	食痕、剥皮
	その他痕跡	ネズミ類(食害)	－	ネズミ類(食害)	－
	痕跡の程度	小	大	小	中
	痕跡のコメント	キタゴヨウにネズミ食害、アオダモにシカ剥皮あり	トドマツ、アオダモにシカ剥皮あり シカの密度高い	キタゴヨウにネズミ食害、アオダモにシカ剥皮あり	アオダモにシカ剥皮あり シカの密度高い
林床植生	優占する植物種	スズタケ	スズタケ	スズタケ	スズタケ、ハクサンシャクナゲ
	植被率	80%	90%	90%	60%
	植生高	－	0.1～0.7m	－	0.1～0.8m
	天然更新状況	普通	普通	普通	普通
保護林の状況等		高木層はキタゴヨウのみが生育する。林床はスズタケが密生し天然更新は不調である。	スズタケは一斉開花後に枯死し、実生がシカに食べられているため大きく衰退している。キタゴヨウとともにトドマツも多い。プロット及び到達経路の多くが急斜面でアクセスが危険である。	高木層はキタゴヨウのみが生育する。林床はスズタケが密生し天然更新は不調である。	プロット及び到達経路の多くが急斜面でアクセスが危険である。キタゴヨウは多く生育している。
林分等の状況		大きな変化は認められない	エゾシカの影響ありプロット要検討	大きな変化は認められない	エゾシカの影響ありプロット要検討
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[－] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[ア、カ] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

1 日高山脈森林生態系保護地域

実施した現地調査	植生方形区プロット調査(6箇所),保護林森林詳細調査(2箇所),保護林森林概況調査(2箇所),森林生態系多様性基礎調査(23箇所)

プロットNo. 10004-円11

項目	H24	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			大きな変化はない。
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			大きな変化はない。
天頂			大きな変化はない。

プロットNo. 10004-円12

項目	H24	R7	比較結果等
磁北方向			大きな変化はない。
磁東方向			-
磁南方向			大きな変化はない。
磁西方向			-
天頂			大きな変化はない。

・調査箇所では森林の状況に大きな変化は確認されなかった。

保護林森林概況調査　総括

保護林名		日高山脈森林生態系保護地域			
保護対象種		-			
プロットorルートNo.注		10004-円1	10004-円11	10004-円2	10004-円12
旧No.		T12-004-1		T12-004-2	
調査年度		H24	R7	H24	R7
調査日		8月30日	9月5日	8月31日	9月4日
林分状況	【高】主要構成樹種	シナノキ	ヤチダモ、シナノキ	ダケカンバ	ダケカンバ、ウダイカンバ
	【高】樹高	15～19m	15～19m	14～17m	15～19m
	【高】植被率	-	80%	-	80%
	【高】DBH	56.7cm	28～43cm	26～63cm	20～66cm
	【亜】主要構成樹種	シナノキ	シナノキ、ミズキ	ナナカマド、キハダ	ダケカンバ
	【亜】樹高	6～9m	7～10m	5～10m	8～11m
	【亜】植被率	-	20%	-	30%
	【亜】DBH	8.～12cm	8～13cm	7～13cm	7～11cm
	【低】主要構成樹種	アオダモ	シナノキ、アオダモ	シナノキ	シナノキ
	【低】樹高	2～5m	2～5m	2～5m	5～6m
	【低】植被率	-	10%	-	10%
	【低】DBH	3～7cm	3～7cm	3～8cm	5～8cm
	最大樹高樹種 樹高	トドマツ 19.4m	ダケカンバ 19m	ダケカンバ 17.5m	トドマツ 19.1m
	最大直径樹種 直径	トドマツ 56.7cm	ダケカンバ 43cm	ダケカンバ 63.8cm	ダケカンバ 66.4cm
	保護対象種の本数割合	-	-	-	-
	気象害 病虫害	- -	風害(小) -	- -	- -
	気象害、病虫害のコメント	-	風倒木が少数みられる	-	-
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡 その他痕跡 痕跡の程度	- - -	食痕 - 微	- - -	- ヒグマ(爪痕) 微
	痕跡のコメント	-	クマイザサの先端部にわずかに食痕あり	-	トドマツに古いヒグマの爪痕あり
林床植生	優占する植物種	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ
	植被率 植生高	密生 0.5～1.5m	80% 0.1～1.0m	密生 0.5～1.5m	90% 0.3～1.3m
	天然更新状況	普通にみられる	普通にみられる	なし	なし
保護林の状況等		エゾマツやトドマツの大径木にウダイカンバ、ダケカンバ、シナノキ、キハダ等が混生する。DBH20cm未満の中小径木が多い。	DBH15～30cm程度の木が多い。ササの薄い箇所にはヤチダモ、キハダ、オヒョウ、シナノキの実生がみられる。	エゾマツやトドマツの大径木にウダイカンバ、ダケカンバ、シナノキ、キハダ等が混生する。DBH20cm未満の中小径木が多い。	ダケカンバ、トドマツは大径木が見られる。多くはDBH10cm程度のダケカンバ、キハダ、シナノキ等が中心の二次林である。
林分等の状況		大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない	大きな変化は認められない
評価・課題等確認された影響 ア:野生鳥獣 イ:病虫害 ウ:外来種 エ:温暖化 オ:自然攪乱 カ:その他 ー:特になし		確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う	確認された影響[-] 引き続きモニタリングによる経過観察を行う
林況写真					

注）過年度の調査範囲は、円形プロット2箇所であったが、R7年度の調査範囲は、既存のプロットを定点写真箇所としつつ、プロットへの到達ルートを基本とした保護林全体とした。

1 日高山脈森林生態系保護地域

実施した現地調査	植生方形区プロット調査(6箇所),保護林森林詳細調査(2箇所),保護林森林概況調査(2箇所),森林生態系多様性基礎調査(23箇所)

森林生態系多様性基礎調査　調査結果一覧

ID		12358	12360	12361	12362	12438	12793	12795	12840	12841	12884	12960	13265
調査年度		R7	R7	R7	R7	R5	R5	R5	R5	R5	R6	R5	R5
調査日		2025/10/7	2025/9/4	2025/6/12	2025/6/6	2023/10/17	2023/6/9	2023/9/21	2023/6/8	2023/8/9	2024/10/1	2023/8/29	2023/8/17
発達段階		天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、老齢	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、老齢
施業形跡(5年以内)		なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
林分状況	【高】主要構成樹種	カツラ	ダケカンバ	トドマツ	カツラ	アカイタヤ	ミズナラ	ダケカンバ、アカイタヤ	アカイタヤ	ミズナラ	ダケカンバ	カツラ	エゾマツ
	【高】樹高	14～28m	7～15m	13～22m	13～24m	20～22m	13～23m	15～22m	13～20m	16～20m	10～20m	13～25m	18～28m
	【高】植被率	50%	20%	20%	20%	60%	30%	50%	60%	70%	50%	50%	70%
	【亜】樹高	7～14m	3～7m	6～13m	5～13m	15～18m	7～13m	7～15m	7～13m	10～16m	4～10m	5～13m	10～18m
	【亜】植被率	40%	10%	40%	20%	30%	60%	50%	60%	50%	20%	30%	40%
	【低】主要構成樹種	カツラ	–	ケヤマハンノキ、アオダモ	シウリザクラ	–	アオダモ	アオダモ	サワシバ	ハウチワカエデ、アカイタヤ	アオダモ	アカイタヤ	–
	【低】樹高	3～6m	–	2～5.5m	2～5m	–	2～4m	2～5m	2～5m	1.2～6m	2～4m	2～4m	–
	【低】植被率	0～20%	0%	20～30%	0～20%	0%	0～30%	20%	0～30%	30～50%	0～10%	10%	0%
	【草】主要構成樹種	オシダ	チシマザサ	アキタブキ、オシダ	クマイザサ	クマイザサ	オシダ、フッキソウ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ	オシダ	クマイザサ
	【草】草丈	0.5m	2.7m	2m	1.3m	0.7m	0.7m	1.6m	0.9m	1.7m	2m	1.3m	1.5m
	【草】植被率	60%	100%	70～80%	80～90%	50～70%	50～70%	50～70%	50～60%	70%	100%	60～70%	90%
	気象害	–	–	–	–	–	雪害	–	–	–	–	–	–
	病虫害	–	–	–	–	–	–	虫の食葉	虫の食葉	–	–	虫の食葉	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	剥皮、食痕	剥皮、食痕	剥皮、食痕、足跡	剥皮、食痕	足跡	剥皮、食痕、足跡	シカ道、足跡	シカ道、糞、剥皮	食痕、糞	剥皮	剥皮、糞、足跡	シカ道、糞、剥皮
	その他痕跡	–	–	–	–	–	–	クマゲラ鳴き声	–	–	–	–	クマの剥皮
	痕跡の程度	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微	微
備考		–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

ID		13271	13287	13288	13291	13295	13315	13316	13318	13346-1	13346-2	13409	13443
調査年度		R5	R5	R5	R5	R5	R5	R5	R5	R5	R5	R5	R5
調査日		2023/10/16	2023/7/11	2023/8/25	2023/7/13	2023/7/14	2023/10/23	2023/8/23	2023/7/12	2023/8/22		2023/8/23	2023/7/25
発達段階		天然更新、老齢	天然更新、老齢	天然更新、老齢	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、攪乱	天然更新、初期	天然更新、成熟	天然更新、成熟	天然更新、成熟
施業形跡(5年以内)		なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
林分状況	【高】主要構成樹種	シウリザクラ、エゾマツ	アカイタヤ	オヒョウ	トドマツ、エゾマツ	ダケカンバ	シナノキ、オヒョウ	ダケカンバ	ダケカンバ	–	ダケカンバ	シナノキ	トドマツ
	【高】樹高	14～26m	17～27m	18～27m	17～24m	15～17m	18～26m	14～21m	13～22m	–	9～17m	13～206m	16～20m
	【高】植被率	50%	50%	60%	60%	40%	70%	70%	40%	0%	70%	90%	80%
	【亜】樹高	8～12m	8～17m	8～18m	10～17m	7～12m	8～17m	7～13m	7～13m	–	7～9m	5～10m	4～10m
	【亜】植被率	30%	30%	30%	30%	10%	20%	30%	10%	0%	10%	30%	20%
	【低】主要構成樹種	–	オオカメノキ、オオツリバナ	シウリザクラ、オガラバナ	トドマツ、ムラサキヤシオ	オガラバナ、オオカメノキ	サワシバ、アオダモ	シウリザクラ、クマイザサ	オガラバナ	–		サワシバ	–
	【低】樹高	–	2～3m	2～6m	1.5～3m	2～5m	2～5m	2～6m	1.5～3m	–		1.5～2m	–
	【低】植被率	0%	10～20%	10～20%	10～30%	50～70%	10%	0～20%	80%	0%		0～10%	0%
	【草】主要構成樹種	オクヤマザサ	チシマザサ	チシマザサ	クマイザサ	クマイザサ	クマイザサ、オシダ	クマイザサ	シラネワラビ	クマイザサ		フッキソウ、シラネワラビ	トドマツ
	【草】草丈	2.2m	2m	1.7m	1.2m	1.7m	1.2m	1.6m	0.5m	2.1m		0.6m	0.8m
	【草】植被率	90～100%	90～100%	80～90%	60～70%	90%	30～80%	90%	30～40%	90%		10～20%	20～30%
	気象害	–	–	雪害	雪害、凍害	–	–	雪害	–	雪害		–	–
	病虫害	水害(H28か)	虫の食葉	虫の食葉	–	–	–	虫の食葉	–	虫の食葉		–	–
鳥獣類痕跡	エゾシカ痕跡	–	剥皮、食痕	剥皮、足跡	シカ道、剥皮	剥皮、食痕	剥皮、食痕、糞	剥皮、食痕	剥皮、食痕	剥皮、食痕		剥皮、食痕	剥皮
	その他痕跡	–	–	–	–	–	ノネズミ糞	–	–	–		–	タヌキ糞
	痕跡の程度	–	微	微	微	微	微	微	微	微		微	微
備考		–	–	–	–	–	–	–	–	2林分に分けて調査を実施		–	–

・樹林帯において確認される生立木は比較的健全な状態であったが、一部の地点で雪害が確認された。
・エゾシカの食痕等が多数確認されたが、影響は軽微であった。

1 日高山脈森林生態系保護地域

実施した現地調査	植生方形区プロット調査(6箇所),保護林森林詳細調査(2箇所),保護林森林概況調査(2箇所),森林生態系多様性基礎調査(23箇所)

日高山脈の景観（幌尻岳新冠側登山道より）

高山帯の状況（大岩）

高山帯の状況（礫地と草地。幌尻岳山頂）

高山帯の状況（カール地形）

ミヤマアケボノソウ

高山帯の状況（お花畑。ｲﾜｷﾞｷｮｳ、ﾁﾝｸﾞﾙﾏ等）

キタゴヨウ

急崖斜面

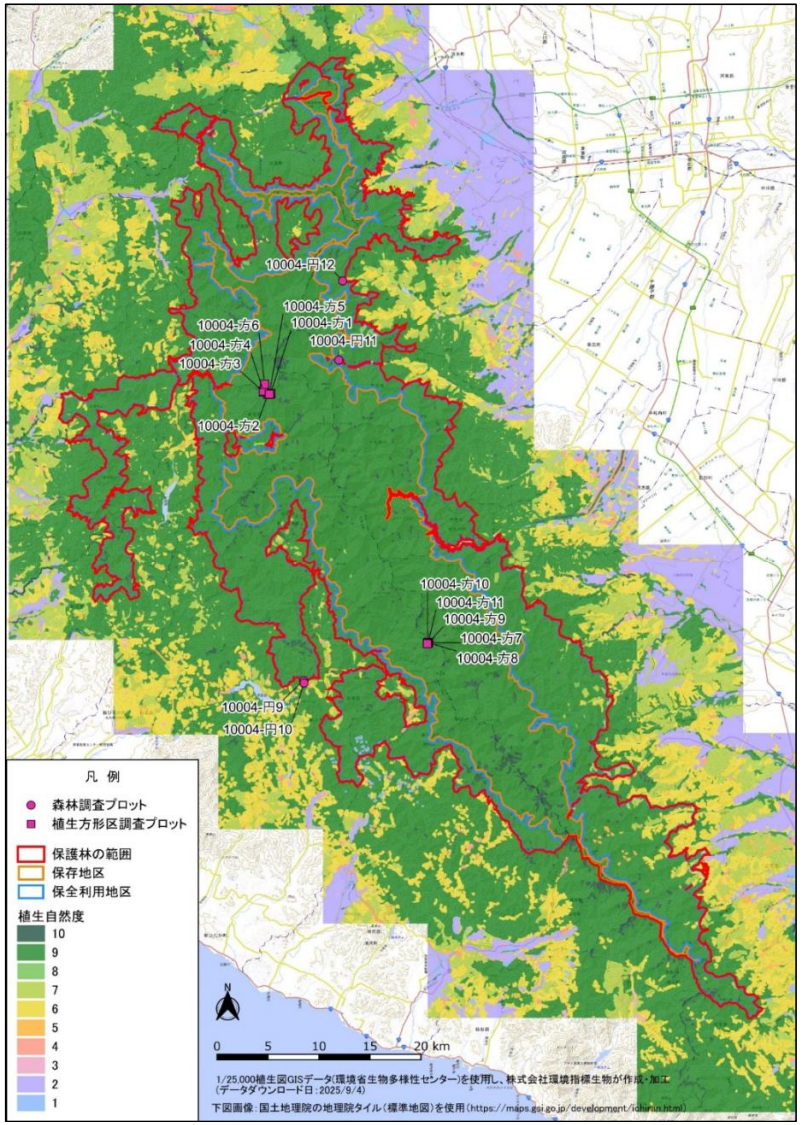
広葉樹林の様子

針広混交林の様子

高山帯：確認された影響[特になし]
・高山帯では大きな変化はみられず、良好な状態が確認された。
樹林帯：確認された影響[野生鳥獣]
・樹林帯では生立木はおおむね健全だが、一部の調査地の下層植生にシカの影響が多く確認された。
・巡視等によりエゾシカの影響や気象害等を注視しつつ、引き続きモニタリングにより経過を観察していく。

1 日高山脈森林生態系保護地域

日高山脈　植生自然度図



日高山脈の景観

幌尻岳と渓流

渓畔林

・この地域に特徴的な自然植生が広がっており、ほとんどの箇所で自然度が高い。
・本保護林はおおむね良好に保護・管理されているが、一部の調査地では今後の天然更新に留意が必要である。
・引き続きモニタリングを有効に活用し、本保護林の保護・管理を行っていく。